

## 第 1 回吉備中央町原因究明委員会の概要及びその後の対応状況

### 1 第 1 回吉備中央町原因究明委員会

(1) 日 時 令和 5 年 12 月 25 日 (月) 14 : 00 ~ 16 : 00

(2) 場 所 吉備中央町役場加茂川庁舎 3 階 会議室

#### (3) 概 要

##### ① 報 告 (吉備中央町の対応状況)

- 吉備中央町から報告

##### ② 議 事

##### ア P F O S ・ P F O A に係る国の方向性 (議題 1)

- 三浦委員から説明

##### 《意見等》

- ・ P F O S ・ P F O A は、過去に幅広い用途に使用されていたため、通常は、環境中で検出されても発生源を特定することは難しい物質である。

##### イ これまでの調査結果 (議題 2)

- 公共用水域等の水質調査結果、使用済活性炭の調査結果及び表層土壌調査結果について、岡山県から説明

##### 《意見等》

- ・ 資材置場周辺の土壌から検出されているのは、資材置場の影響と考えると良い。なお、同族体の構成比や P F O A の直鎖体と分岐異性体の構成比の解析を検討されたい。

##### ウ 今後の調査の方向性 (議題 3)

- 公共用水域等の継続モニタリング及び環境質等の追加調査について、岡山県から説明

##### 《意見等》

- ・ 公共用水域等の継続モニタリングは、採水可能な範囲で現在の計画に西側沢 E 2 及び西側沢 F 1 で年 2 回の調査を加えられたい。
- ・ 使用済み活性炭の追加調査は必要と認められない。
- ・ 使用済み活性炭から溶出し、土壌へ浸透していると判断して差支えない。
- ・ 地下水への混入を判断するため、深度方向の調査の実施を検討されたい。少なくとも、使用済み活性炭 No27 の付近で表層から深度方向に 1 点、可能であれば地下水調査を検討されたい。第 2 回委員会で環境質等の追加調査案を事務局から提示すること。
- ・ 資材置場の地下水が西側沢 F 1 へ流出していると判断して差支えない。

### 2 その後の対応状況

- 土壌試料等の同族体の構成比や P F O A の直鎖体と分岐異性体の構成比を解析
- 公共用水域等の継続モニタリングの調査地点を検討し、令和 6 年 2 月に調査
- 資材置場の深度方向の土壌及び地下水の調査について、調査の専門機関と検討